

# 令和元年度 下水道事業会計決算概要

生活環境の向上や河川等公共用水域の水質保全を図るための汚水対策事業、並びに雨水の排除による浸水の防除を行う雨水対策事業を、計画的に実施しました。

なお、経営成績並びに財政状態を明らかにすることを目的として、企業会計方式の経理方法により、管理運営に関するもの（収益的収支）と施設の建設に関するもの（資本的収支）に区分しています。

## 1. 経営成績について

営業損失 2,566,098,894円、経常利益 1,735,470,798円、当年度純利益 1,732,037,889円となりました。

## 2. 財政状態について

令和元年度末における財政状態は、資産の部合計 237,166,712,030円、負債の部合計 175,752,972,135円、資本の部合計 61,413,739,895円となりました。

## 3. 建設改良事業について

平成23年度を初年度とする四日市市総合計画に基づき、汚水の処理区域の拡大並びに雨水の浸水対策等下水道施設の整備拡充を図りました。

- ・吉崎ポンプ場沈砂池築造工事
- ・阿瀬知ポンプ場沈砂池機械設備工事
- ・日永浄化センター水処理脱臭設備工事
- ・吉崎ポンプ場電気設備工事
- ・小古曽汚水1号幹線管渠布設工事 等

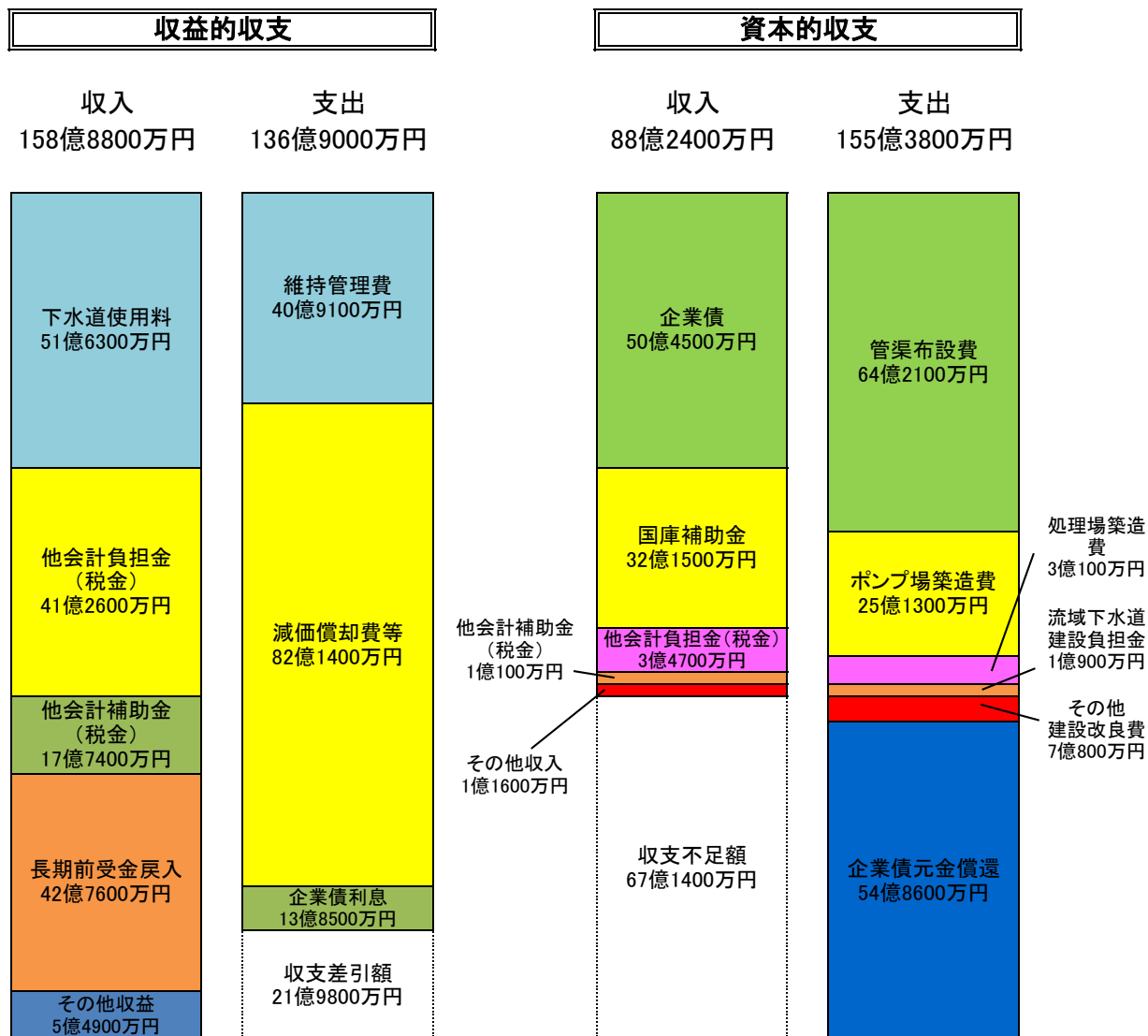
## 4. 普及状況

令和2年3月31日現在

項 目		令和元年度	平成30年度	差引増減
行政区域内人口 A	人	311,527	311,431	96
処理区域面積	ha	4,775.1	4,712.8	62.3
処理区域内戸数 B	戸	112,910	110,791	2,119
処理区域内人口 C	人	246,083	244,210	1,873
水洗化戸数 D	戸	105,193	102,629	2,564
水洗化人口 E	人	228,717	225,690	3,027
人口普及率 C / A	%	79.0	78.4	0.6
水洗化普及率 D / B	%	93.2	92.6	0.6
水洗化率 E / C	%	92.9	92.4	0.5
供用1年後の水洗化率	%	93.7	93.4	0.3
有収水量	m <sup>3</sup>	24,920,623	24,878,803	41,820
雨水排水整備済面積	ha	2,912.0	2,912.0	0.0

## 5. 財政状況

※税込



### 《収益的収支》

収入 管理運営経費の財源である収益的収入は、下水道を利用される皆様にご負担いただく下水道使用料が33%、雨水の排除や浸水の防除のために一般会計から受け入れる他会計負担金(税金)が26%、汚水処理の経費のうち一般会計負担となる他会計補助金(税金)が11%、施設等を建設する際に過去に受け入れた国庫補助金等の減価償却費相当分である長期前受金戻入が27%となっています。

支出 施設・設備の維持管理費30%、減価償却費等60%、企業債の利息10%という構成比になっています。

### 《資本的収支》

収入 資本的収入は、将来の経営活動に備えて行う施設・設備の建設改良及び建設改良にかかる企業債償還金の財源です。その内訳は企業債が57%、国庫補助金等が37%、雨水処理にかかる他会計負担金(税金)が4%、汚水処理にかかる他会計補助金(税金)が1%、その他(受益者負担金等)が1%となっています。

支出 管渠、ポンプ場、処理場などの建設・改良の費用等が65%、企業債の元金償還が35%となっています。なお、収支不足額は、前年度の利益や減価償却費などで補填しています。

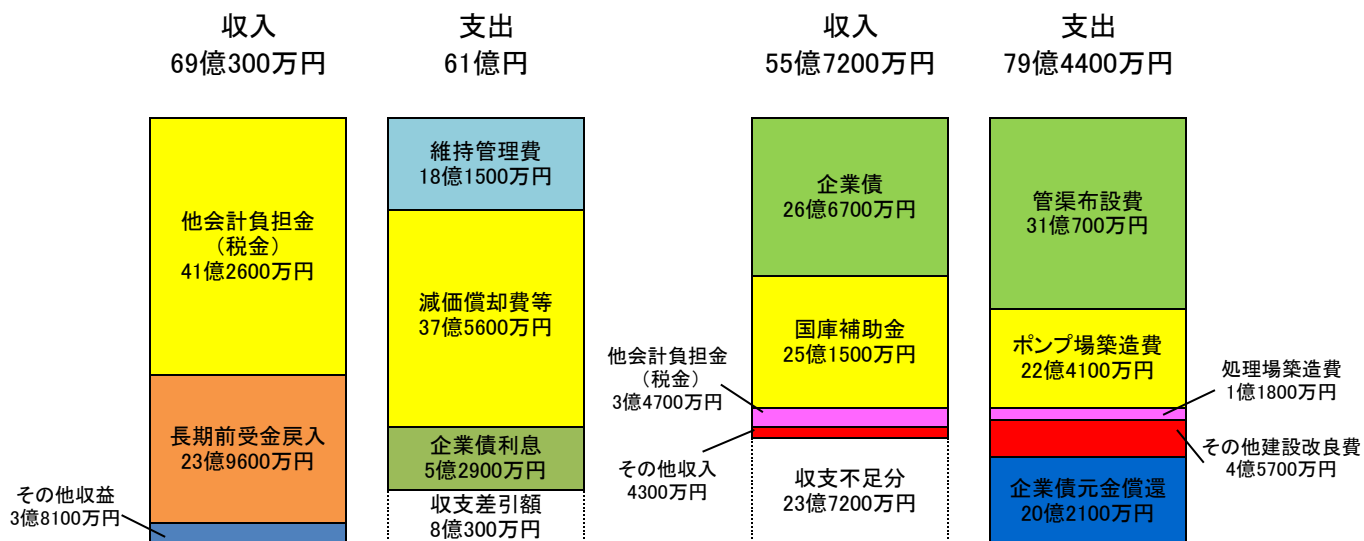
財政状況を雨水・汚水別にすると以下の通りです。

## 雨水

※税込

### 収益的収支

### 資本的収支

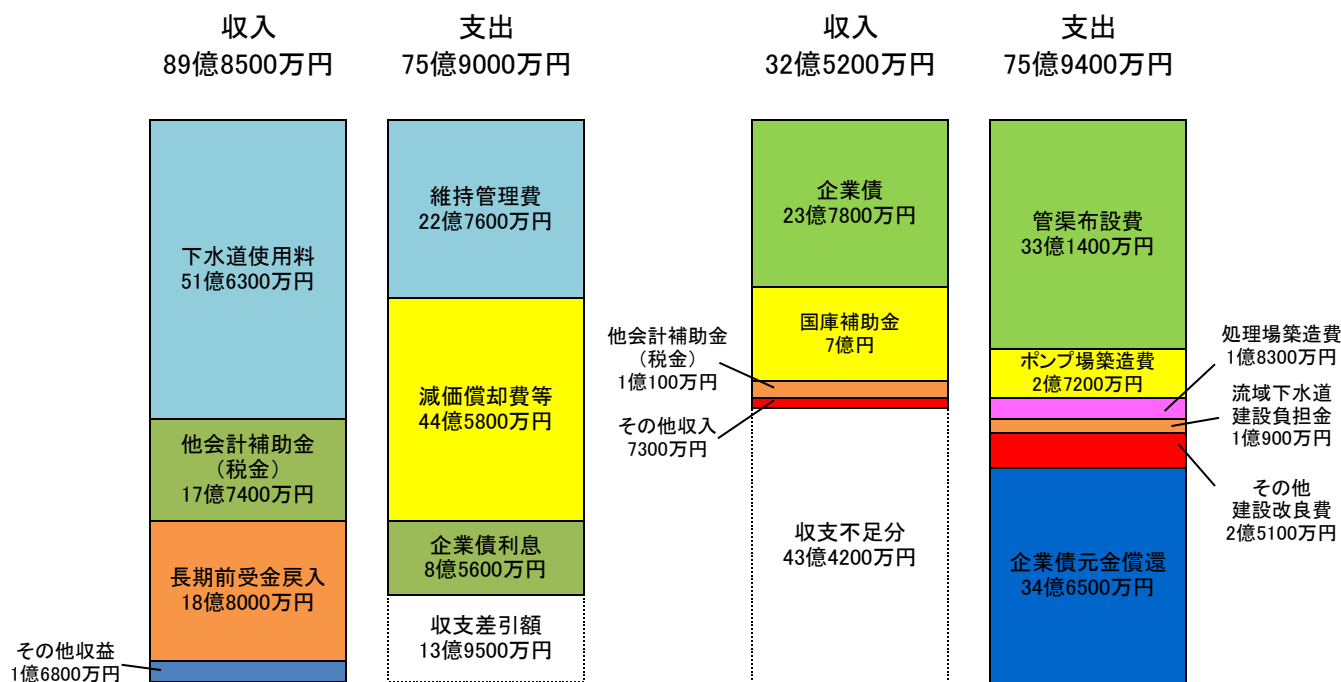


## 汚水

※税込

### 収益的収支

### 資本的収支

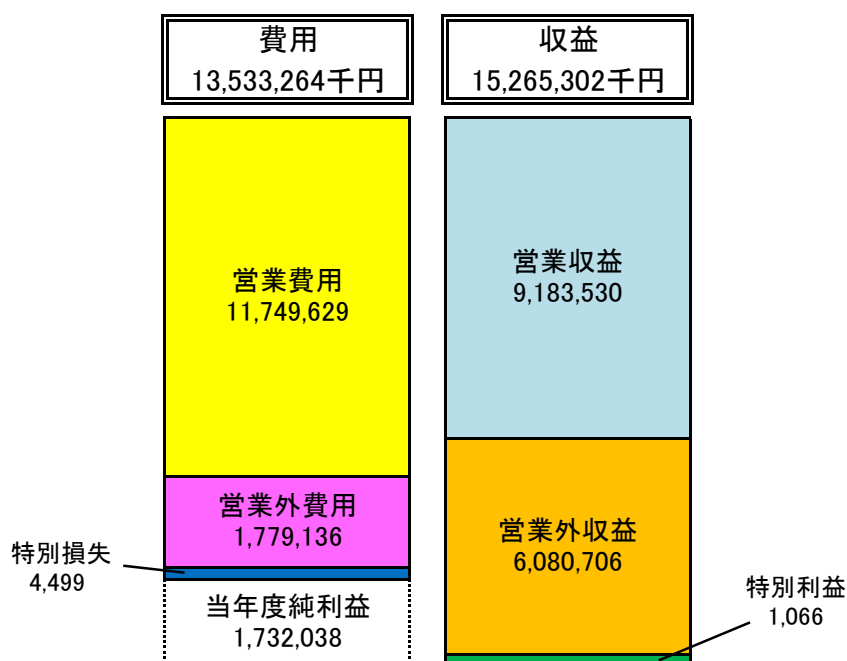


# 損益計算書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

単位:千円(税抜)

費用の部		収益の部	
<b>営業費用</b>	<b>11,749,629</b>	<b>営業収益</b>	<b>9,183,530</b>
管渠費	538,403	下水道使用料	4,750,737
ポンプ場費	874,523	負担金	4,125,643
処理場費	657,316	受託事業収益	80,202
都市下水路費	206,290	その他	226,948
業務費	815,757	<b>営業外収益</b>	<b>6,080,706</b>
総係費	290,678	他会計補助金	1,773,729
普及促進費	73,431	長期前受金戻入	4,275,784
受託費	79,211	貸倒引当金戻入額	18,457
減価償却費等	8,214,020	その他	12,736
<b>営業外費用</b>	<b>1,779,136</b>	<b>特別利益</b>	<b>1,066</b>
支払利息	1,384,403	その他特別利益	1,066
その他	394,733		
<b>特別損失</b>	<b>4,499</b>		
過年度損益修正損	3,258		
その他特別損失	1,241		
<b>費用の部合計</b>	<b>13,533,264</b>	<b>収益の部合計</b>	<b>15,265,302</b>
<b>当年度純利益</b>	<b>1,732,038</b>		
<b>合計</b>	<b>15,265,302</b>	<b>合計</b>	<b>15,265,302</b>

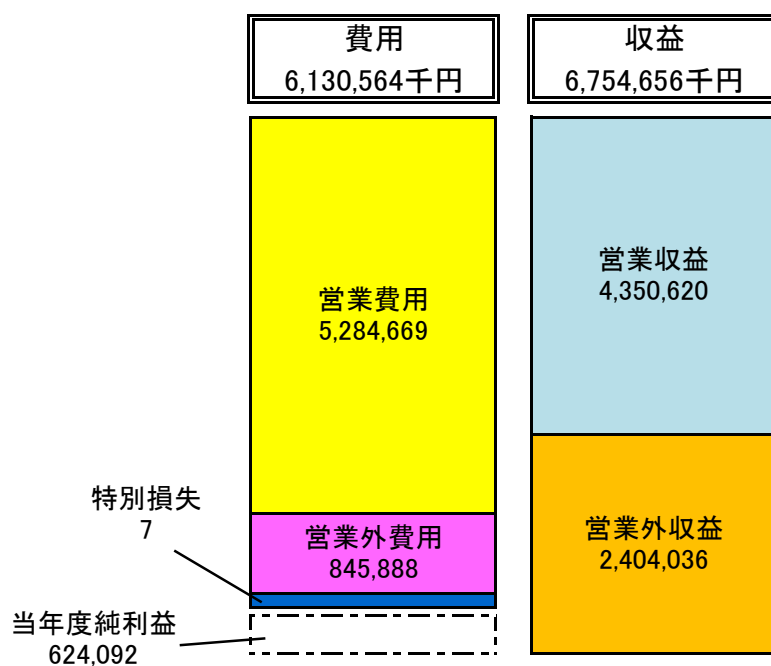


損益計算書は1事業年度における企業の経営成績を明らかにするために、当該年度中に得たすべての収益からそれを得るのに要した費用を差し引くことによって損益の発生原因とその期間の純損益を表した報告書です。

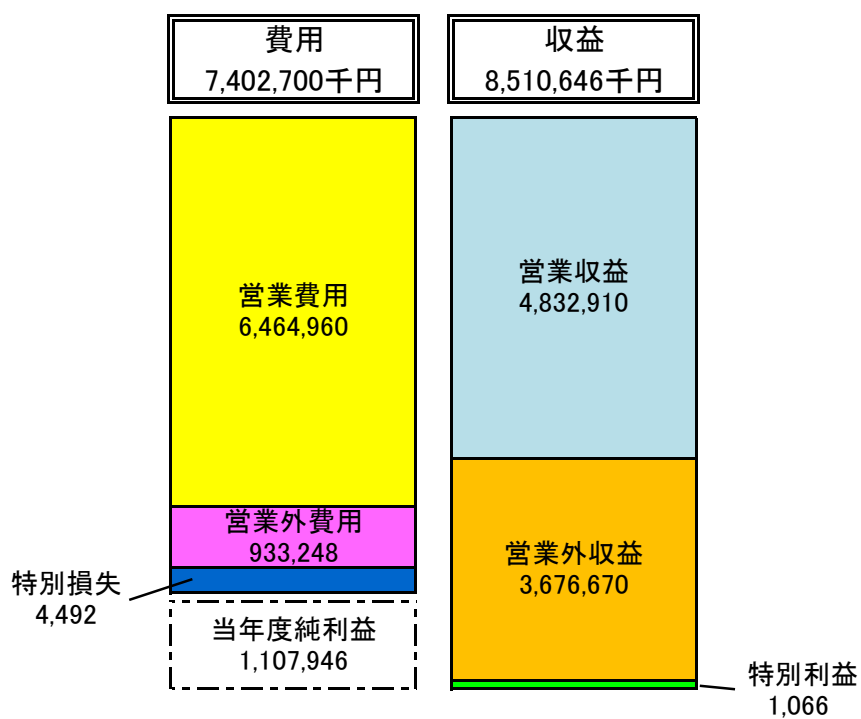
令和元年度は収益が費用を上回り、1,732,038千円の当年度純利益となりました。この利益は下水道の整備に伴い借り入れた企業債の元金償還に充てています。

損益計算書を雨水・汚水別にすると以下の通りです。

## 雨水



## 汚水

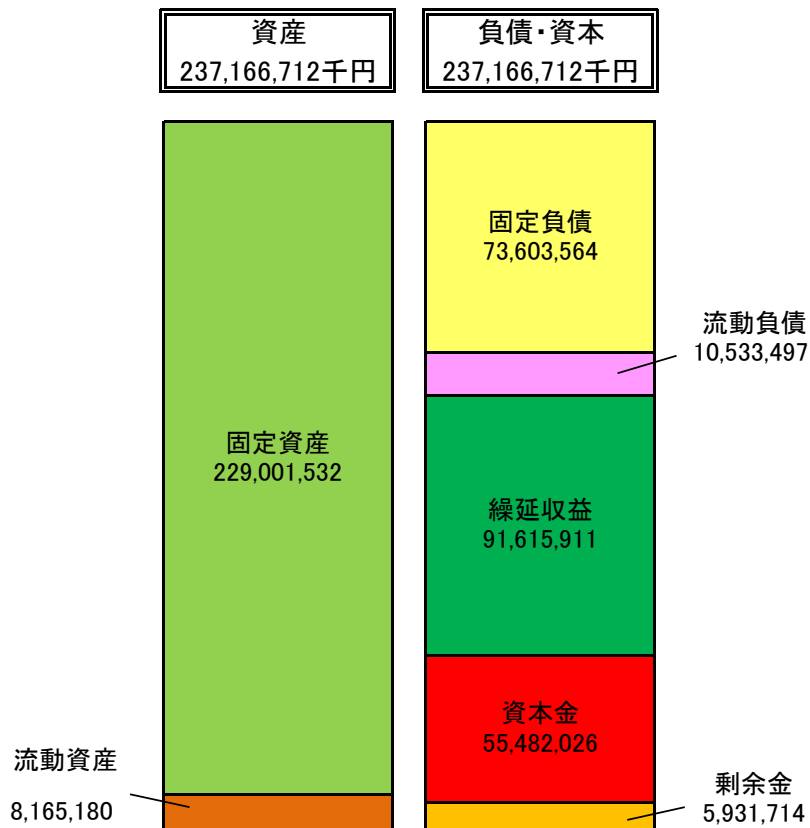


# 貸借対照表

(令和2年3月31日)

単位:千円(税抜)

資 産 の 部		負 債 の 部	
<b>固定資産</b>	<b>229,001,532</b>	<b>固定負債</b>	<b>73,603,564</b>
有形固定資産	221,655,824	企業債	72,250,344
無形固定資産	7,341,694	引当金	1,353,220
投資	4,014	<b>流動負債</b>	<b>10,533,497</b>
<b>流動資産</b>	<b>8,165,180</b>	企業債	5,445,886
現金預金	6,497,353	未払金	5,018,321
未収金	976,740	引当金	48,660
前払金	691,087	その他	20,630
		<b>繰延収益</b>	<b>91,615,911</b>
		長期前受金	91,615,911
		資 本 の 部	
		<b>資本金</b>	<b>55,482,026</b>
		自己資本金	55,482,026
		<b>剰余金</b>	<b>5,931,714</b>
		資本剰余金	2,146,883
		利益剰余金	3,784,831
<b>資 産 合 計</b>	<b>237,166,712</b>	<b>合 計</b>	<b>237,166,712</b>



貸借対照表は、企業の財政状態を明らかにするため、年度末において保有するすべての資産、負債及び資本を総括的に表した報告書です。

令和2年3月31日現在、資産（正の財産）のうち93%を有形固定資産（土地、建物、構築物等）が占めています。また、その資産が何によって形成されているかを示しているのが負債・資本です。